

1. 推計方法

今回、愛媛県内のシニアマーケットの動向を把握するにあたって、まず、総務省の「国勢調査」「全国消費実態調査」などを基に現状の県内の消費マーケット規模を推計した。今後のマーケットの予測は、これをベースに、国立社会保障・人口問題研究所の「将来推計人口（愛媛）」と、IRCが実施した「中高年世代の生活に関するアンケート」の結果から算出した今後の消費動向などを勘案して、2030年まで推計した。

2. アクティブシニア（65～74歳）マーケット

より詳細な分析をするため、65歳以上のシニア層を「アクティブシニア（65～74歳）」と「ゴールドシニア（75歳以上）」に分類した。

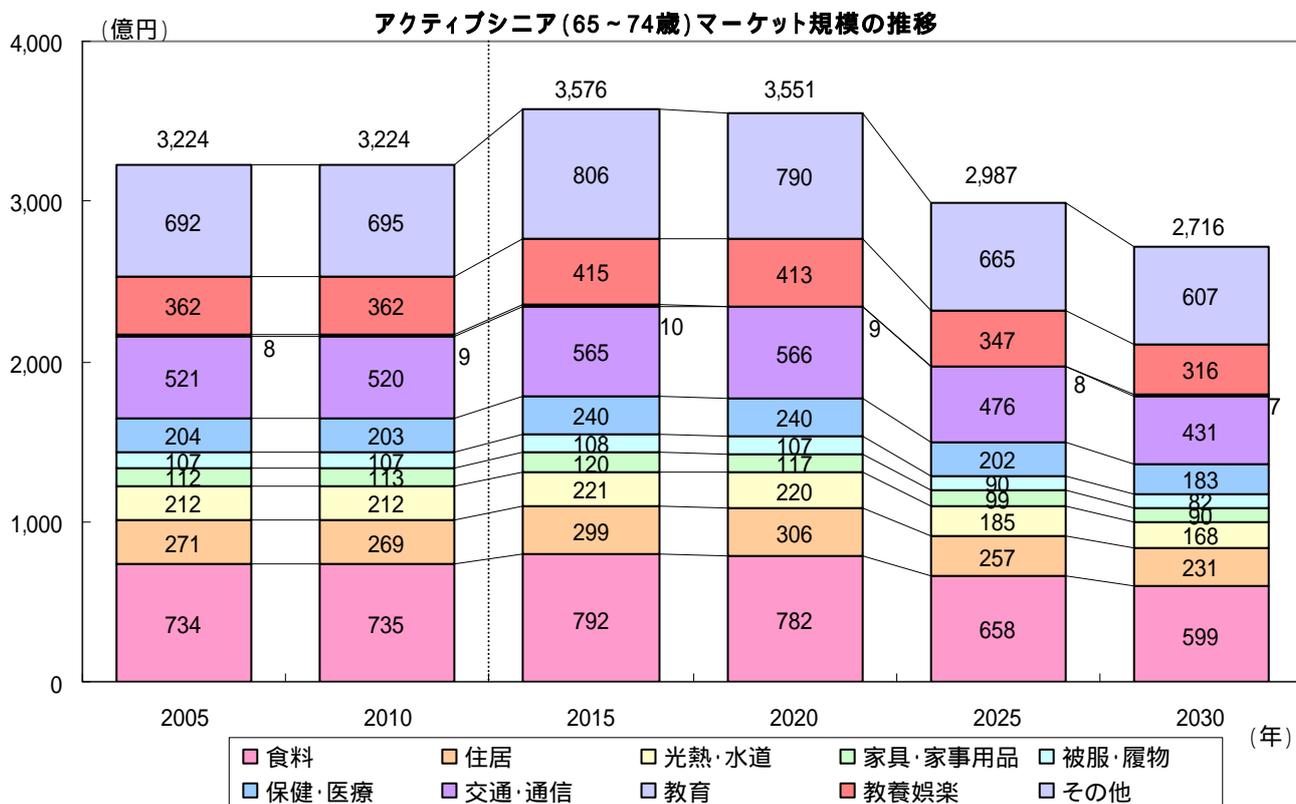
アクティブシニアマーケットの規模は、団塊の世代の人口動態にあわせて当面は増加し、2015年から2020年の間にピークを迎える。その後は減少に転じ、2025年には2010年の水準を下回る。

アクティブシニアマーケットの動向を分野別にみると、「教養・娯楽」は2015年には2010年と比較して10%以上の高い伸びとなる。「住居」も2020年頃までマーケットの拡大が続く。介護が必要となる前にリフォームや住み替えを実施するニーズが大きくなると考えられる。

また、最も規模の大きい「食料」のほか、「光熱・水道」や「保健・医療」、「交通・通信」なども、当面の間は増加し、2015年から2020年の間にピークを迎える。

一方、多くのシニアが一定のストックを有しているとみられる「衣服・履物」や、放送大学や各自治体の施策などで生涯学習の場が既に多く提供されている「教育」などでは、マーケットの大きな伸びは期待できないようだ。

なお、いずれの分野も2020年以降は大幅に減少する見通しである。



3. ゴールドシニア（75歳以上）マーケット

次に、75歳以上のゴールドシニアのマーケット規模をみると、2030年までの予測期間を通して拡大が続くという結果になった。

特に、団塊の世代がゴールドシニアに該当するようになる2020年から2025年にかけて大きくマーケットが拡大する。2025年にはマーケット規模が3,311億円となり、アクティブシニアのマーケット規模を上回る。

ゴールドシニアマーケットの動向を分野別にみると、各分野ともに大きく伸びているが、特に伸びが大きいのが「保健・医療」で、2010年から2030年の間に40%以上の高い伸びとなる。このマーケットを囲い込むために、事業の多角化を進める動きもみられる。

「食料」に関するマーケットも、2025年には800億円を超え、拡大を続ける。今後、自宅に居ながらにして、充実した食生活が送れるような、様々なシニア向けサービスがさらに普及していくと考

えられる。

また、「住居」や「交通・通信」も今後大きく増加するが、「住居」「交通・通信」に関するマーケットは、アクティブシニアにおける「住居」「交通・通信」のマーケットと比べて半分以下の規模となる。

4. まとめ

アクティブシニアとゴールドシニアを合わせた愛媛のシニアマーケットの規模は、2020年から2025年の間にピークを迎え、その後は減少に転じるという推計結果となった。ただし、75歳以上のゴールドシニアのマーケットは2025年以降も増加するため、これらの層をいかに取り込むかが重要であると言えそうだ。

以上

